

平成 29 年度 第 2 回代表者会議 会議録

日 時	平成 29 年 10 月 12 日 (木) 午後 3 時～5 時 30 分	書記
場 所	厚木市保健福祉センター 5 階 視聴覚室	
出席者	<p>厚木医師会 (東名厚木病院) 神奈川県精神科病院協会 (清川遠寿病院) 厚木市身体障害者福祉協会 厚木市手をつなぐ育成会 厚木市自閉症児者親の会 精神保健福祉促進会フレッシュ厚木 厚木地区知的障害者施設連絡会 (野百合園) 厚木市障害者福祉事業所連絡会 (三田つばさ) 厚木市・愛川町・清川村地域精神保健福祉団体連絡会 厚木市居宅介護事業所連絡会 (ハートピアラ) 社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団七沢自立支援ホーム 社団法人神奈川県宅地建物取引業協会県央支部 相談支援事業所連絡会 (相談支援事業所すぎな) 地域包括支援センター (睦合南包括支援センター) 厚木市教育委員会 特別支援学校 (えびな支援学校) 厚木公共職業安定所 厚木保健福祉事務所 厚木市社会福祉協議会 厚木市福祉総務課 厚木市障がい福祉課 オブザーバー：相談支援センターゆいまーる、神奈川県発達障害支援センター 委託相談支援事業所：ハートラインあゆみ ケアーズ山藤 厚木精華園ここから 相談支援事業所「わたしの夢」 相談支援事業所すぎな 事務局：厚木市障がい福祉課 厚木市障がい者基幹相談支援センター</p>	
内容	<p>(敬省略)</p>	
	<p>1 開 会 事務局 資料確認 開会挨拶 障がい福祉課長より</p> <p>議事進行 司会 (事務局) ⇒ 議長 (会長)</p> <p>2 議 題 (1) 平成 29 年度上半期委託相談支援事業における実施報告 ※ 事例報告については、詳細は割愛する。</p>	

・厚木市障がい者基幹相談支援センターより
相談の件数は横ばいだが、地域包括支援センターからの相談が増加傾向。適宜アドバイスを
行っている。サービス利用の相談や調整が件数として多かった。

相談支援事業所からの相談が減っていることについては、地域包括支援センター連絡会との
合同会議などへの参画を通して、顔の見える関係性ができたことで連携がとりやすくなったこ
とや相談支援スキルが高まり、地域の中で十分にその役割が果たしているためと思われる。

事例報告 題：妄想を現実として捉えて医療を拒む方の支援

・ハートラインあゆみ

担当地区が厚木・厚木南地区に変更になった。相談の内訳としては精神の方が8割以上を占
めてはいるが、徐々に知的・身体の相談も増えてきた。「障がい者相談支援センター」の認知が
され始めたことで他機関からの相談も増えている。

サービス利用に関する相談が多いが、サービスに直接つながらない相談も多くアフターフォ
ローも重要と感じている。

事例報告 題：本人の変化を待つことの大切さ

・厚木精華園 相談支援事業所ここから

4月～9月までの相談件数は1,260名。相談件数も多く、相談員が一人で抱え込まないよう
に注意をしている。ご本人やご家族の不安解消や情緒安定を図りながら地域で安心した暮らし
を続けられるよう相談支援を行っている。

地域包括支援センターが近くにあることから連携がとりやすく、地域で暮らす人の自宅訪問
や必要に応じて地域の相談窓口としての役割を担っている。

事例報告 題：退院後の新たな居住の場が必要な方

・相談支援事業所「わたしの夢」

今年度は担当地区が変わったこともあり、前任センターの引き継ぎや地域包括支援センター
からの相談も多かった。利用者への支援方法の標準化が図れず、事業所間の温度差などからト
ラブルに繋がってしまうケースもあり、チームでの支援、多職種連携の重要性を痛感している。

事例報告 題：養護学校卒業後の地域生活支援

・ケアーズ山藤「よろずや」

昨年度に比べ、相談件数が激増。迅速な対応が難しい現状がある。緊急性の高い順に対応し
ており、当事者にじっくりと時間を取って相談対応ができる環境を作っていきたい。

今期は厚木市が力を入れて、地域包括ケア社会、特に多職種連携の取り組みをしているおかげ
で、多職種の連携がよりの確にでき、スムーズな相談支援の事業展開ができた。

事例報告 題：母の入院に伴い、介護者不在のケース

・相談支援事業所すぎな

今年度より厚木市障がい者相談支援センターの活動を開始し、半年が経過。相談経路として
は地域包括支援センターからの相談が最も多く、障がいを持った子どもと暮らす高齢者の一人
親家庭からの相談が複数見られた。すぎな会で行っている「かながわライフサポート事業」か
ら相談を引き継ぐケースが何件もあり、担当地域は異なるものの、それまでの支援を通じて構
築した関係性を大事にしながら相談支援を継続している。

事例報告 題：本人が安心して過ごせる居場所づくり

・総合相談室ゆいはあとより、困難事例として追加の事例報告を行った。
題：本人・家族ともに支援者の関わりや介入が困難なケース
現状と課題について報告し、委員の皆様よりご意見やご感想をいただいた。
→家族に介入できる場所はどこなのか。現状のサービスでケアしようとしても、かなり難しい。こうなるには今までの経過があったと思うので、ケース研究をしながら、実際の対応はできることをやっていくしかないだろう。

・相談支援事業所「わたしの夢」より意見
40代50代の知的障害が疑われる方で、一緒に生活していた家族等が他界や施設入所され、急に独りぼっちになってしまい、療育手帳の申請をしようとしたが、証明するものが何もない場合がある。例えば、当時の担任も他界しているなど、状況の分からない方が3名いる。成績表などの保管期間を延長できないか。
→現在、成績に関する記録の保存期間は、卒業後5年間と定められているようだが、市の担当者や教育委員会において、この課題について協議していただき、厚木市独自の取り組みに発展させていけると良い。

(2) 平成29年度障害者協議会上半期活動報告

協議会の取組について各プロジェクト担当者より報告。

・相談支援プロジェクト
相談支援専門員に求められる役割や期待はとて大きく、人材育成としてGSVを定期的に関催。今年度は権利擁護に焦点を当てて、成年後見制度についての研修会を実施した。意思決定支援のプロセスについても触れながら、今後は計画相談支援の中にどのようにそれらを取り入れながら進めていくかが課題である。

・一貫した子育て・療育支援プロジェクト
医療、福祉、教育を繋ぐためのツールとしてのマイサポートブックの活用と、放課後等デイサービス事業所が多数あり、特色等の情報を保護者や相談支援専門員も把握し辛くなっていること、この2つの課題を中心に取り組んできた。一貫した子育て・療育支援体制を構築していくためには、他機関の連携と情報共有が不可欠であり、プロジェクトの委員が放課後等デイサービス事業所連絡会に参加することや、幼稚園協会等への働きかけも必要であるとの提案もいただいております、相互交流のあり方についても検討を行っていきたい。

・居住確保プロジェクト
障がい者理解については、まだまだ啓発が足りない状況。地域で生活することが、障がいを抱える方にとっていかに大変で素晴らしいものか理解してもらうためには、当事者の声を聞くことが有効であると昨年度の当事者発表から感じる事ができた。下半期以降も引き続き、普及啓発の方法を検討していくとともに支援者同士が協力できるような体制を整えていきたい。

・防災プロジェクト
障がい者の防災は、地域住民の理解と協力が不可欠であるため、地域づくりのプロジェクトに位置付け、検討を重ねているところである。地域住民をはじめ、庁内のいろいろな部署に協力していただくことになり、地域防災をテーマにした大きなプロジェクトになっている。地域の実情にあった防災体制の構築のため、地域の要望を出来る限り取り入れてプロジェクトの推進に努めたい。

・就労支援プロジェクト

障がい者の就労支援の強化に向け、平成30年度から就労相談専門員を配置し、就労相談対応、企業訪問等による企業開拓、各事業所や特別支援学校等の関係機関との連携などを実施していくために、どのような役割を担ってもらうことが就労支援の強化に繋がるか、このプロジェクトで検討したものを厚木市へ提案していきたい。

意見交換

- ・防災プロジェクトは、実践的で素晴らしい取り組みと感じた。保健福祉事務所では難病や小児慢性疾病について取り組みを行っている。災害時において、今問題になっているのは医療機器を付けた方の対応で、内部バッテリーなどは約12時間が限界と言われているため、その後、どのように支援をしていけばよいのかなどの課題について、市町村の防災関係者などと話し合いながら進めている状況。

津久井やまゆり園の事件を受けて、共生社会を作っていくための理念を広めるために、10月21日・22日に「みんな集まれ2017」というイベントを横浜の赤レンガ倉庫にて開催。実行委員はさわやか福祉財団である。共生社会をアピールするため、事業所が作ったものの販売や、音楽やダンスなどを披露するので、興味のある方はぜひ参加していただきたい。神奈川県HPに情報が載っている。

- ・精神科でも在宅酸素などを使われている方は多い。病院協会でも災害時の取り組みを行っている。人工呼吸器にしても医療との関係は深いので、病院協会などとも情報交換をしていければよいのではないか。
- ・東名厚木病院でも院長を中心に災害時の取り組みを行っているが、まだ話はまとまっていない段階。人工呼吸器や在宅酸素の方が増えている状況は分かっているが、対応までは話が進んでいない。今日の意見を踏まえて、対策に努めていきたいと感じた。

(3) 平成29年度障害者協議会下半期に向けての検討課題

下半期も4つの柱を中心に検討していく。

特に防災プロジェクトでは、地域住民や関係機関とともに行う避難訓練を、平成30年3月4日(日)に予定しているため、その後の経過も含めて次回の代表者会議で報告をする。

厚木市としてどのような課題に取り組むことが必要か、年度途中でも構わないので、委員の皆様各様の各推薦母体でもご協議いただき、ご意見をいただけると幸いである。

3 その他

・危機管理課長より

厚木市で備蓄している非常食をサンプルとして持ってきた。

賞味期限が近づいたものを1月と3月に入れ替える。是非お持ち帰りいただいて、厚木市がこういったものを備蓄していることを知っていただきたい。

厚木市避難行動要支援者避難支援計画については、15地区で、地区説明会を行った。現在、名簿を作成中である。本人の同意がなければ地区に名簿を渡せないが、約800名が未返信の状況である。再度、通知を送るが、不明点等があれば、危機管理課にご相談いただきたい。

・オブザーバー(かながわエース)より

この4月から課長補佐となった。今日は非常に有意義な話を聞き勉強になった。今後ともかながわエースともどもよろしくお願ひしたい。

議事進行 議長（会長） ⇒ 司会（事務局）

- ・厚木市福祉総務課地域包括ケア推進担当課長より、地域包括ケア市民講演会の案内
日時：平成30年1月12日（金）13：00～14：40
会場：厚木市文化会館 大ホール

4 閉会

挨拶 副会長より

以上